

# 営農 イノブケーション

## これからの稲作管理の要点

環境保全米の使用農薬・肥料は、下記を参照してください。

### 育苗管理の要点

#### 〔播種〕

うす播きほど苗質は良好です！  
播種日は、田植への予定日から逆算して設定します。必要以上の早播きや厚播きは障害の発生や老化苗の原因になります。

#### 〔病害防除〕

薬剤による予防対策を徹底するとともに、高温多湿にならないよう注意しましょう。

#### 〔苗立枯病予防〕

タチガレエースM粉剤を床土に混和するか、緑化時にタチガレエースM液剤を育苗箱に灌注してください。

また、発根促進資材としてファイト・オーツの使用もおすすめします。

#### 〔灌水〕

灌水は床土の乾燥程度を確認し、水温と気温の較差の少ない朝のうちに1日1回で済むようにたっぷり行いましょう。

#### 〔温度管理〕

時期ごとの適正温度

・出芽時30℃以内（細菌性病害予防のため30℃を超えないように）  
・緑化期の温度は、日中20℃～25℃  
・育苗期間中は高温多湿で経過すると、障害の発生につながりますので、温度管理には十分注意しましょう。  
・晩霜に注意しましょう！

#### 〔追肥〕

追肥は1.5葉期を目安に実施しましょう。また、窒素成分で1g/箱が目安となります。

散布時期に異常低温が予想される場合は、天候の回復を待って散布して

ください。

※ロング入育苗肥料使用の場合は追肥の必要はありません。

田植2～3日前の追肥は、初期生育の促進に効果があります。

#### 〔田植〕

苗の種類に合った適期田植を心がけましょう。また、天候の穏やかな日に行ってください。

#### 〔肥培管理の注意点〕

基肥の量を決定する場合は、春先の土壌の乾燥程度で乾土効果による地力窒素を予想し、施肥量を増減します（3月と4月の合計雨量を平年と比較し、少ない場合は減肥）。

天候は毎年違いますので、生育時期に合わせた肥培管理を心掛け（腹八分目の施肥）、低温が予想されるときは、追肥の回数や量に注意しましょう。

## 平成30年産 JA古川米 栽培体系

（使用量：10a当たり）

区分		環境保全米		
項目		ひとめぼれ、ササニシキ、つや姫、東北194号（ささ結）		
作業名	時期	使用資材名	使用量	成分数
種子消毒	3月	温湯消毒又は微生物農薬		0
苗立枯病	4月	タチガレエースM粉剤・液剤 または タチガレ粉剤・液剤	6～8g 1ml/箱	2 (1)
発根促進	4月	ファイト・オーツ	1ml/箱	—
基肥	5月	環境保全米名人N12 みやぎ米有機一発218 ネオペースト1号	ササニシキの例 ひとめぼれの例 30kg以内 40kg以内 20kg以内	—
害虫・葉いもち病防除	5月	ファーストオリゼフェルテラ粒剤 Drオリゼフェルテラ粒剤 側条オリゼメートフェルテラ顆粒水和剤	(床土混和～播種時覆土前) (緑化期～移植当日) (移植時ペースト肥料に混合)	50g/箱 50g/箱 500g/10a
除草	5月	シュナイデン 1キ口粒剤・フロアブル・ジャンボ	1kg・ 500ml・400g	3